

にんげん

身から出たもの 3

手術の翌日は自分の身体の変化を知ることになったのです。結局、S状結腸の切除の部分の状態などから、横行結腸に人工肛門ストーマが仮設されていました。術後の大腸の負担を考えると無理はできないとの主治医の決断でした。この決断が正しかったのは、その後の容態を考えれば十分納得できることでした。その露出した腸管をみたとき、まるで子供のころ食べた駄菓子屋のすもものようだと言っていました。このストーマには便を貯留させるパウチという袋がついていて、定期的に看護師さんが便の処理してくれます。まだまだ水様便ではありますが、紛れもなく自分の大腸からでてきたものです。また、腹腔に挿入された排出のためのドレンが二本お腹から出ています。導尿もしているので尿道からも管がでています。背中には硬膜下脊髄麻酔の細い管が注入器につながっています。鼻にもチューブ、それに点滴は抗生剤とリンゲル液とわたしの身体はまさにスパゲッティ状態でした。ただ、それらは別に不快はないのですが、じっと寝ているだけでこんなにづらい感じを味わったことはありませんでした。身の置き場のないとはこのような状態だと、つくづく思いました。また、お腹の真ん中を臍を迂回しながら20cmの長さの手術の傷がガーゼに覆われてあります。背中の麻酔はありますが、やはり傷口の痛みが気になりました。こんな状態で特別室に3日間

いましたが、29日の月曜日には一般病棟に移ることができました。すぐに、その夜から栄養補給が開始され、鼻のチューブ、導尿の管、ドレンの二本の管も口先だけ残してカットされ、硬膜下麻酔と点滴だけになりました。このときは術後初めて自分の足で歩いて病室を移動できたのです。それから、術後の経過もゆるゆるながら快復していきました。人工肛門の処置も看護師さんに教えてもらい、次第に自分でできるようになりました。ところで入院して、もっとも感じたのは内勤の看護師さんたちの献身的な仕事ぶりでした。もちろん技術的な差はベテランと経験の浅い看護師さんではかなりありましたが、チームをつくって主任クラスがフロアーごとに目配り気配りしながら、患者さんに対応していました。今の若い人たちは根気がない、やる気もないとかいいますが、この病院ではバラツキはあっても、看護師さんの質は全体的にとってもよく、エールを送りたいほど本当に頑張っていると感じました。それに、患者になって初めて分ったことといえば、普段では大人として振舞うことで封印されていた、甘えとか依頼心や疎外される不安とかが、多かれ少なかれ、わたしも含めてでてくることです。6人部屋の患者さんの会話とか、ナースコールの内容など聞くとなしに聞いていると、それが如実に表れていました。もちろんこれは、入院して最初のころの患者さん



と病院生活に馴れてきた患者さんでは対応はだんだん変わっていきま
す。とくに、入院したての患者さん
は非常にナーバスになっていますの
で、看護師さんは非常に気を使っ
ているのがわかります。経過は術後5
日目に、スープなどを口から取れる
ようになりました。その頃に開腹部
位が化膿してきて、強い痛みがで
てきてしまいました。そのために先生
は抜糸して洗浄と消毒をして膿を排
出するようにしました。当然ながら
開腹部位はパツクリとクチを開いて
グロテスクです。しかし、先生から
はそのような可能性を前もって言わ
れていたの、不安にはなりません
でした。局所麻酔はしていたので
すが、抜糸はかなり痛いもので
した。それでも入院生活はどんどん過ぎて
いき、歩行訓練で歩数ものびて、試
験外出もできるようになりました。
友人たちの見舞いも増えて、心身と
もに快方に向かっている実感はあり
ました。しかし、近いうちにがんの
転移の検査という重大な結果があ
り、精神的にはかなり緊張していま
した。そして、11月6日に先生より
検査の結果を夫婦でナースセンタ
ー内で聞きました。結果は厳しい話で
リンパ節などに転移があり、来週か
らの抗がん剤開始を告げられたので
す。精神的にはかなりのショックで
したが夫婦とも意外に冷静に聞けま
した。先生からは最近では抗がん剤
の効果もかなり期待できるし、がん
と共存して、延命していく選択肢も
確立してきたと励まされました。ま
た、わたしががん細胞は未分化の増

殖の強いタイプではないことも救い
です。まず、目標は副作用で中断す
ることなく半年間化学療法を続ける
ことです。この日からいよいよがん
サバイバーとしての道を歩むこと
になったのです。それからリハビリを
つづけ体力も気力もしだいに回復
し、抗がん剤治療の大きな副作用も
なく、順調に11月29日に早期退院
することができました。これには、
かみさんの毎日のマッサージと指圧
のリハビリが非常に効果があったと
実感しています。それから約一月後
のクリスマスには家族で、食養
生はお休みしてケーキを食べて、
シャンパンで乾杯しました。ほぼな
んでも食べれるようにもなりまし
た。といっても従来の食生活ではい
けませんので、かみさんが幕内秀夫
さんの食養を参考にして料理を作っ
ています。ちょうど手術から二ヶ月
です。日常的にすこしは制約はあり
ますが、抗がん剤も一ヶ月サイクル
の2クール目にはいり、折り合いも
うまいっています。ところで、今
一番強く願っていることは、これか
らの人生を一治療者としてまっとう
したいということです。このところ
少しずつ患者さんの治療も始めまし
た。3月初め頃をめどに本格的な治
療の再開とわたしの技術の受け渡し
もしたいと思っています。これか
ら、どのように病気が動くかわかり
ませんが、たんたんと生きて行こう
と思っています。心配していただい
た読者のみなさん、治療仲間、患者
さん、友人、そして大切な家族、み
んなありがとう。



突然の休刊は本当に申し訳なく、残
念な思いで一杯です。いずれまた再
開を願いつつ、しばらくお休みです。
読者のみなさま、ファインドととも
に創刊3号より連載開始したわたし
の「にげんかんさつ」を、長い間ご
愛読していただきありがとうございます。
心より御礼申し上げます。わ
たくしライオンこと神林聖二でした。

わたしの治療・セミナーを
受けてみませんか

わたしの手技療法、「閾値調整療法」の
施術を受けてみたい先生、そのセミ
ナーに興味のある先生がいらっしゃい
ましたら連絡をお待ちしています。
まだ、セミナーの日程や本格的な治療
再開は検討中なので、追ってこちらか
らご連絡さしあげます。ご希望の先生
は住所・氏名・電話番号などを電話・
FAX・Eメールでお知らせください。

世田谷区奥沢 満月治療院
TEL 080-5533-9657
FAX 03-3704-9657
Eメール saint@m03.itscom.net

かん さつ